

免許返上しても、安心して暮らせる町に



「のるーと桑名」桑名市HPより



「チョイソコめいひめ」明和町HPより



玉城町「元気バス」

- 9人乗りワゴン車3台を、毎日運行。
- 電話予約受付 30分前から2週間先まで
- 市民は誰でも無料(登録必要)
- 運行経費 年間約 1,800万円
- 後期高齢者医療費年間 1,100万円削減
- 運行主体 玉城町社会福祉協議会

鈴鹿市民のコミュニティバスをよくする会

〒510-0234 江島本町31-36 辻井良和方
Fax.059-386-0646 電話090-6577-3617
<2022年12月発行>

皆さんのご意見をお聞かせ下さい。

いつでも、誰でも、どこへでも…高齢者や交通弱者の願いです。

満足度最下位は公共交通

次期総合計画策定のための市政アンケート調査集計結果

次期総合計画策定のための市政アンケート調査集計結果が2022年10月に鈴鹿市HPに公表されました。その結果を見ると、鈴鹿市は自然が豊かで、治安がよく安心できる。7割の人が住みやすい、8割の人が住み続けたいと答えています。その反面、市外に転出したい人の

高齢化社会を迎えるなかで、どの市町でも公共交通の充実は大きな課題です。末松市長も3期目の公約に「公共交通の充実」を掲げましたが、一ノ宮地区で中途半端な実証実験をしただけでなく、多くの市民が願っている地域交通を、地域の助けあい活動に切り替えるとしていま

近隣市町に較べて2周遅れ



鈴鹿市が公共交通に使っている予算は約2億円で、一般会計予算に占める割合は、わずか0・3%です。市民の要求が強いにも関わらず、桑名市や近隣市町に較べてあまりにもお粗末です。

桑名市は、市長直轄組織で推進

■桑名市ではすでにコミュニティバスが8つのルートで運行されており、民間バスとも重複しながら多種多様できめ細かい交通手段が存在しています。

それでも、市民満足度調査では「公共交通」の分野は重要度が高い反面、満足度は低いという結果がでているので、市長直轄組織で推進しています。

今年度から人口約1万2千人の地域で、AI(人工知能)活用の才

ンデマンドバス「のるーと桑名」の実証実験を始めました。多気郡明和町(人口約2万3千人)でも今年10月から、AI活用乗り合い交通「チョイソコめいひめ」の実証運行が始まりました。町が年間3千4百万円の予算で、乗車定員5人のワンボックス車二台を運行。電話かネット予約し町内170力所の停留所で乗降。運賃は高齢者1回300円、免許返納者は150円となっています。

公共交通予算の比較(R4年度)	
鈴鹿市	●新交通システム運行 1,100万円 ●Cバス(西部・南部)運行 1億7,250万円 ●廃止代替バス路線運行委託 876万円 ●交通網整備促進 336万円 合計 1億9,562万円
桑名市	●次世代モビリティサービス推進 2,500万円 ●コミュニティバス運行 1億5,637万円 (コミュニティバス8路線、廃止代替バス1路線) ●養老線運営支援 1億4,100万円 合計 3億2,237万円
	一般会計予算682億円の 0.3%
	一般会計予算527億円の 0.6%

どの地域・年代でも
満足度の低い「公共交通」
(40項目中順位)

年代	満足度の低さ
20代	ワースト3
30代	ワースト3
40代	ワースト3
50代	ワースト1
60代	ワースト1
70代	ワースト1
80以上	ワースト1

■満足度評価が低いワースト5
1. 移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上
2. 防犯環境づくりの推進
3. 消費活動の更なる活性化推進
4. 誰もが安心して働ける労働環境づくり
5. 交通事故対策の推進

「次期総合計画策定のための市政アンケート」
鈴鹿市HPより(R4年10月)

鈴鹿では、やっぱり、オンデマンドバス！

電話かネット予約で、直ぐ近くまで

鈴鹿市全域に10サークルと中央循環バスを運行しても1.5億円。既存のCバスなどと合わせても、近隣市町並の交通予算です。

運賃無料で自主運行(玉城町方式)の場合

どれくらいお金がかかるか試算しました

■中央循環・地域巡回バス費用試案(年間)

- 自主運行方式、1日9時間360日運行
- 中央循環バスマイクロバス4台
リース代 1,440万円

- 地域巡回バス10サークル
ワゴン車20台 リース代 3,600万円

- 運転手賃金 8,100万円

- 燃料費 2,700万円
オペレーター職員 20人=4,800万円

- コンビニカルシステム利用料 1,800万円

- 電話代など 150万円

<総合計> 2億2,590万円

■財源について(概算)

- 利用登録料年間3千円×2万人=6,000万円

- 高年齢者雇用助成金 2,000万円

- 鈴鹿市から一般会計総額の0.2% 1億5千万円



運賃無料で
自主運行は
コスト最高!
費用対効果

高齢者の外出促進

医療費削減

元気な町づくり

高齢者と交通弱者に
住みよい街に



全体をつなぐ中央循環バスと オンデマンドで地域を走る10サークルで

私たちの提案!

一ノ宮地区での実証実験をみても、人口密度の低い鈴鹿市では、やっぱりオンデマンドバスしかないということが、ハッキリしたのではないでしょうか。

私たちは、市内10地域サークルでのオンデマンドバスの運行

2つの団地、一つのスーパー、病院、鈴鹿市駅と市役所をつなぐだけの路線運行で、利用者は限られた人数になりました。

オンデマンドバスは、人口2万人位の地域で、2、3台のワゴン車を、電話かネット予約で走らせるのがもつとも効率がいいと

人口2万人位の地域で オンデマンドバスを

一ノ宮地区での実証実験は、



言っています。

私たちちは、一ノ宮地区で行うなら、長太も含めた一ノ宮地区と箕田地区をひとつつの運行地域(エリア)とするオンデマンドバスの運行を提案しています。運行費用は路線方式と同等か安く

運行できると試算しています。

路線バス形式は、 どう考えても行き詰まる。

一ノ宮地区での実証実験は?

路線バスは、ルートをあわでもない、こうでもないと考えても行き詰まる。高齢者は身体が弱り停留所まで歩けない。停留所を多く設定すれば運行時間がかかりすぎ。おまけに、鈴鹿市全体に走らせるには莫大な費用がかかる。現実的には不可能。

それに較べてオンデマンドバスなら、必要な時、必要な停留所にとまるだけでいいので燃料代は最小ですむし、停留所もたくさん設定できる。刻々と変化するのを人工知能が考えるので、簡単に設定できる。鈴鹿のような田舎都市には、これしかない。



一ノ宮地区での 実証実験は?

▶ 1日6万7千円の運行経費で6往復
1便あたり平均乗客は、たった一人

一ノ宮地区乗合ワゴン実証実験の現況 (2021年12月1日～2022年2月28日まで)

火・金曜日／運行日数23日間／1便0.66人	月・水曜日／運行日数24日間／1便1.21人				
乗車数	降車数	乗車数	降車数		
一ノ宮地区市民センター	6	0	高岡山センター	93	0
池田団地中央通り	13	0	高岡台3丁目センター	13	0
JA鈴鹿一ノ宮支店	10	0	高岡山中央公園	5	0
一ノ宮公民館	0	0	一ノ宮憩いの広場	1	10
高木病院	7	0	高木病院	14	13
オークワ鈴鹿高岡店	13	9	オークワ鈴鹿高岡店	15	31
一ノ宮集会所	52	0	一ノ宮公民館	2	5
鈴鹿市駅	0	74	一ノ宮集会所	58	0
鈴鹿市役所	0	18	鈴鹿市駅	0	107
101人		201人			